

主婦の職業の有無による食生活の動向(第1報)

華学園栄養専門 ○松山順子 聖霊女短大 大野禎子

富山女短大 宇宅千香子 実践女大 関登美子 宇宅勉子 速水沢

目的 最近家事労働の他に、自営を含めて収入につながる何らかの仕事を持つ主婦が増えてきた。家事労働は機械文明の発達に伴い合理化され、食に関する部分においても調理器具の開発・加工食品の氾濫により、主婦が食に携わる時間が変化してきた。食事の作成は毎日のことであり、主婦として家族の健康を守るという意味において他に仕事を持っていても欠かすことのできない重要な仕事である。一般に兼業主婦は家事労働に関心が薄いと見られるが、予備を省くと思われがらだが、実際に調べたものは数少ない。そこで専業主婦と兼業主婦では、食生活に関する意識と実態についてどのような違いがあるかを調べてみた。

方法 昭和55年、首都圏在住の主婦600名、地方都市在住の主婦400名の計1,000名に対し、アンケート用紙による調査を行った。質問事項は、家族構成、家事以外の仕事の有無と拘束時間、食事の作成時間、食事開始時間、買い物についての調査、加工食品の使用回数とその内容、各食品群の使用回数と調理形態などである。

結果 専業主婦と兼業主婦では、食事作成時間、食事内容にはほとんど差がみられなかった。買い物は全体的に毎日買いに出る人が多かったが、兼業主婦においては時間のとれる時にまとめて買いをする人もみられた。さらに計画的に買い物に出かける曜日を決めている人も多くいた。このことから家事以外に仕事を持っていて時間的に束縛されることの多い主婦と家事に専念している主婦とでは、食に関する家事時間と手間にあまり差がないという結果がみられた。また兼業主婦においては時間というものを意識して1日の生活にリズムを持たせていることなどがうかがえた。